

杏雲堂病院創立記念日について

(財) 佐々木研究所理事長 黒川雄二

おかげさまを持ちまして、杏雲堂病院は、明治 15 年(1882)開院以来、本年 6 月 1 日で創立 125 周年を迎えることとなりました。以下に、開院日判明に至った経緯などを紹介致します。

杏雲堂病院の前身である杏雲堂醫院の開院の年は、これまで「杏雲堂病院百年史」などに記載のあるように、明治 14 年(1881)とされてきましたが、その開院日がいつであるかは不明でした。ところがこの度、酒井シヅ先生(順天堂大学医学部客員教授、医科学)のご協力によりついにその開院年が明治 15 年であり、開院日が 6 月 1 日であることが判明しました。以下はその根拠となる広告記事の文章(東京日日新聞及び醫事新聞明治 15 年 5 月 20 日号)です。

「佐々木氏の脚氣病院 其広告左の如し 脚氣は本邦の地方病と称すへき者にして我政府至仁の典 曩(さき)に明治十一年を以て脚氣病院を設けられ 委員を置き 五年を期して本病の原因治法等を検究せしめらる 東洋も亦治療委員の命を奉し 爾來孜々(しし)今日に及へり 然るに今般該病院を廃せられたり 因てここに一病院を私設し 今後三年を期し 汎く本病者を治療し以て孜々の素志を達せんと欲す 乃ち余が治療を受けんと欲する諸君は本院に就き規則を一覧して入院あれ

六月一日開院

駿河台西紅梅町三番地

佐々木東洋」

お分かりのように、明治 15 年 5 月 20 日号の広告に、「六月一日開院」と明記してあるのですから、杏雲堂醫院開院日はまさに、「明治 15 年 6 月 1 日」であるわけです。

佐々木東洋が駿河台に杏雲堂醫院を開院したのは、明治 11 年から 15 年まで当時の国民病だった脚氣を治療するために設けられていた公立(東京府)病院が閉鎖されたので、東洋自身が脚氣病院を作ることを決意したからです。この経緯について、詳しくは財団法人佐々木研究所ホームページ内の「資料室」に、杏雲堂病院の沿革・歴史についてもホームページ内に詳しく記載しておりますので何卒ご覧下さい。

(なお、御茶の水界隈の病院としては、創立 168 年の順天堂醫院、創立 126 年の井上眼科に次ぐ古い歴史を持つ病院となるようです)。

